

4 キャリアアップに資する教育訓練

対象となる派遣労働者	訓練名	内 容	訓練方法	費用負担	賃金支給	訓練時間(年間)	左記訓練の趣旨、目的、効果、目標等
入職時のみ (基本的に全員が対象)	基礎的訓練	①マナーの修得 ②工場内ルールの修得 ③部品の知識の修得 ④品質の知識の修得	OJT	無償	有給	6H ①0.5H×1(座学) ②0.5H×1(座学) ③2.5H×1(実地) ④2.5H×1(実地)	①・②作業服の着用、施設の利用方法、就業に関するルール等を学ぶ。 ③検品する部品の種類や検品の手順の理解する。 ④検品する部品の品質に関する基準を理解する。 【目的】未経験者を対象におこなうもので、職場での基本的なルールを学ぶとともに、実際の検品業務をおこなう前に、予め検品手順や判別基準等をおおまかにでも知識として知っておくことで、業務の修得時間を効果的に早めることを目標とする。
入職時～1年目まで (基本的に全員が対象)	目視検品訓練	①目視検品・仕分の修得 ②実地による目視検品・仕分の修得 ※本人の習熟度に応じて②のコマ数は変動する。	OJT	無償	有給	9H以上 ①1H×1(座学) ②8H×1(実地)	②実際の検品業務と同等の実地訓練を行い、検品の基準等を学ぶ。 【目的】本格的な検品業務をおこなう前の最終訓練として実施するもので、基礎的訓練で得た机上の知識を、実際に活かせる知識へとレベルアップさせることを目標とする。 これにより、よりスムーズに検品業務へ入ることができるようになる。
2年目以降、かつ、 <u>目視検品レベルが一定 の水準以上に達してい ると認められた者</u>	機械検品訓練	①機械検品・仕分の修得 ②実地による機械検品・仕分の修得 ※本人の習熟度に応じて②のコマ数は変動する。	OJT	無償	有給	17H以上 ①1H×1(座学) ②8H×2(実地)	①②目視検品より繊細な部品の検品をおこなうことができるよう機械による検品の方法(操作方法、検品項目及び検品判断基準)を学ぶ。 【目的】目視検品を修得した者を対象として行うもので、機械を使用した検品業務ができるようにすることを目的として行う。これにより、より多くの種類の部品の検品をおこなうことができるようになる。
3年目以降、かつ、 <u>会社が特に認めた場合</u>	入出荷作業	①業務フローの把握 ②検品作業の準備(段取り)の修得 ③部品の入出荷作業の修得 ※本人の習熟度に応じて②③のコマ数は変動する。	OJT	無償	有給	40H以上 ①8H×1(座学) ②8H×2(実地) ③8H×2(実地)	①②部品の入出庫作業から検品作業の準備(段取り)等を学ぶ。 【目的】リーダーの候補として考える者を対象に実施するもので、裏方的な業務を行うことにより、業務全体の流れを把握し、業務を円滑にすすめることができるよう、考える力を身につけさせることを目標とする。これにより、リーダーとして必要な能力を身に付けることができ、また、正社員登用という更なるキャリアアップにもつながる。
2年目以降、かつ、 本人が希望した場合	事務等	・パソコン操作の修得 ・伝票入力手順の修得	OFF-JT	無償	有給	8H	・入出荷のデータ入力や、伝票の処理を学ぶ。 2年以上の希望者全員を対象としておこなう。 【目的】就業可能な職域を広げ、採用される可能性を高めることを目標とする。事務職だけではなく、全ての職種にPC等の知識は必須であるため、基礎的な項目の訓練ではあるが、一定の効果を期待できる。
4年目以降、かつ、 リーダー職にある者、又は、 会社が特に認めた場合	リーダー研修	・リーダーとして必要な知識の修得 ・相談	OJT	無償	有給	8H/年 ※現在リーダー職にある者は必ず年1回行う。	・リーダーとして必要な知識等を学ぶ。 既にリーダーに選任されている者や新たに選任される者を対象として実施する。 【目的】リーダーとしての知識を得るとともに、その職責の重さを理解させることを目標としている。 また、既にリーダーとして選任されている者から定期的に相談を受け、アドバイスをもらう機会とする。